



NEWS!

2004.10月号

発行：NPO法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク ●〒541-0046大阪市中央区平野町3-1-7大阪屋セントラルビル6F
●TEL090-8989-5182(山口) ●年会費1口2000円(個人1口以上、学生半口以上、団体3口以上、賛助会員(会社)5口以上)
●郵便振替00920-8-154437 ●<http://www.mmjp.or.jp/gcon/> ●gcon-osaka@mail.goo.ne.jp

原発廃材フライパン

「原発廃材フライパン、いいじゃないですか。」経済産業省原子力安全・保安院が、9月2日大阪で開いたシンポジウムでの審議会委員の発言です。原発廃材の金属を再利用しフライパンにしたりする放射能のスソ切り処分制度化が検討されています。

廃炉時代を迎えた原子力発電。解体撤去される原発の多量に発生する廃棄物の全てを放射性廃棄物として扱っては、経費が高くつくと考えた原子力推進派は、一定レベル以下のものを普通の廃棄物としたり再利用しようというのです。

標準的な原発は、解体すれば廃棄物の量も50万トンから55万トンにのぼると予想されていますが、スソ切り処分により放射性廃棄物として扱うものをわずか2～3%に抑える予定です。

制度化に向けて経済産業大臣の諮問機関である総合資源エネルギー調査会で検討が行われてきましたが、9月14日に報告書がまとめられ、来年の国会に法改悪案が提案されます。

放射能の影響には、これ以下であれば安全であるという「しきい値」はありません。低レベルだからと放射能の規制を外せば、思わぬ被爆を招きかねません。原発の解体現場で、膨大な量の廃棄物を基準どうりかどうか測定し、分別できるかも疑問です。せめて、「原発廃材リサイクル品にはラベル明示を」と審議会に訴えましたが、その必要はないとされてしまいました。

国会議員に反対の声を届けてください。多くの方にスソ切りの危険を知っていただき、反対の世論を作りましょう。